

編集後記

●メッセージは、国土交通省水管理・国土保全局の松原誠下水道部長に「これからの水環境管理～施行令改正から20年～」と題し、メッセージをいただきました。令和5年は、平成15年の下水道法施行令の大改正から20年の節目となります。この施行令改正は下水道法の施行以来長らく未制定であった構造基準を定めるとともに、計画放流水質の概念の導入、窒素・リンにかかる放流水質基準の新設、合流式下水道の改善対策にかかる各種規定の新設など、水環境管理にかかるものを中心となっています。当時を振り返りつつ、これからの水環境管理の方向性についてご執筆いただいています。

●エンジニアリングレポートでは、①「分流式下水道における雨天時浸入水の調査技術に関する共同研究」、②「管路内浄化システムに関する共同研究」について報告しています。①では、共同研究者から提案いただいた調査技術に関して特徴等を体系的に整理したほか、自治体から提供いただいた実フィールドにて絞り込み技術としての妥当性や費用対効果等を検討しました。②では、既存下水道管きょに新たな機能を加え管きょ内で下水処理を実施する手法である管路内浄化システムの適用性や性能評価を行うとともに、評価結果を分析し得られる効果について検討しました。

●研究室探訪では、「環境」と「防災」をテーマとした研究をされている関西大学環境都市工学部都市システム工学科の尾崎平教授の研究室にお伺いし

ました。インタビューでは、人々の行動変容につなげる仕組みづくりや、教育・研究に当たり大切にされているという「幸せ」の視点についてお話しいただいています。

●トピックスでは、令和4年4月にリニューアルオープンした大阪市下水道科学館取材しました。平成30年3月から一時休館し、大規模なリニューアルを実施したこの施設では、プロジェクションマッピングなどの映像技術や体感型ゲームを取り入れるなど、楽しく体験しながら下水道への理解を深めることができる様々な工夫が施されています。施設内の展示や工夫について紹介いただくとともに、今後に向けての意気込みを伺いました。

●ユーザーレポートでは、吹田市下水道部より次世代型マンホール蓋導入に関してお話を頂きました。吹田市ではマンホール蓋のがたつきや食い込みなどのリスクを避けるため、平成26年から次世代型マンホール蓋を設置し始めました。設置に当たっては、設計担当や工事担当が現場を見ながらそれぞれの経験をもとに判断していたことから、本機構が発刊しているマニュアルを参考に、令和4年4月に設置基準を作成されました。また、現在、市内のマンホール蓋の点検を進めているようで、今後の計画的なストックマネジメントの取り組みが期待されます。

(編集委員一同)

表紙の 写真



次世代に向けた新しい技術への期待と本機構の成長を象徴する意味を込めて、こどもの写真を表紙のシリーズとして掲載しています。

今号の表紙のお子さんは本機構・研究第一部の土師健吾主任研究員のお子さんで、芽衣子（めいこ）ちゃん2歳（写真右）と結樹（ゆうき）くん1歳（写真左）です。

二人とも外遊びが大好きで、寒空の下でも毎日公園に繰り出し「寒くない!」と言って砂場で裸足になって遊んでいるそうです。またおしゃべりも大好きで、「最近はおはみさんにハマリ、芽衣子ちゃんのモノマネにふたりで爆笑している」とのことです。

写真は、横浜みなとみらいの大さん橋国際客船ターミナルで撮影した1枚です。今年も姉弟仲良く、笑顔溢れる1年にしてほしいですね。

下水道機構情報

Vol. 18 No. 36
2023年1月

令和5年1月10日発行

発行者・編集者 花木啓祐

機関誌編集委員：清水 久子／阿部 千雅／端谷 研治
加藤 伸孝／森岡 真弓／今里 譲治
土師 健吾／青木 良太／角田 太

発行所 公益財団法人日本下水道新技術機構

〒162-0811 東京都新宿区水道町3-1 水道町ビル7階
TEL 03(5228)6511 FAX 03(5228)6512